SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY

札医大だより

第35号

発行／2023年4月1日
編集／札幌医科大学
学務課

Reborn：新時代への飛躍に向けて

学長　山　下　敏　彦

2022年末、約10年間にわたる一連のキャンパス・施設整備が完成し、札幌医科大学は新しい姿に生まれ変わりました。新設の教育研究棟には一新された講義室や実習室が整備され、既存棟についても大幅な改修により学修環境が格段に向上しています。また、学生の皆さんが自主学習や食事・休憩時に利用可能な学生ホールや、附属病院と教育研究棟を繋ぐ「広場」（愛称『らてす』に命名）も整備され、学生生活を快適に送るための環境が整いました。

まさに“reborn”を遂げた札幌医科大学ですが、新しい時代に向けて、ハード面だけでなくソフト面でも様々な新たな取り組みを開始しています。大学教育におけるICTツールとして、学習支援システム（Moodle）やe-learning systemを導入し、学習効果を一層高めるための環境整備を推進しています。さらに、専門的な学生支援として、「保健管理センター」の機能強化により、メンタル面のサポートにも力を入れています。

本学は、世界最高レベルの研究・診療の推進をモットーとしています。再生医療に関しては、骨髄間葉系幹細胞（ステミラック注）を用いた世界初の脊髄再生医療の実臨床が展開されており、すでに約100例に及ぶ脊髄損傷症例に治療が実施されています。また、免疫病理学的研究によるがんワクチンの開発も着実に進められています。2022年には、さらなる研究活動の活性化をめざし、「先端医療研究推進センター」を開設しました。

一方、本学附属病院は、この３年間、新型コロナウイルス感染症の医療において、本道の先頭に立って対応してきました。これまで当院が受け入れた中等症～重症患者数は900名以上にのぼります。最重症患者に対するECMO（体外式膜型人工肺）については、全国有数の治療成績を上げています。2022年には、「感染症医療教育・支援センター」を道内で初めて設置し、感染医療のエキスパートの育成を通して、コロナの先の新たな感染症への対策に取り組んでいます。コロナ診療以外にも、ロボットや内視鏡を用いた外科手術や、がん診療・炎症性腸疾患（IBD）診療においては全国トップクラスの実績をあげています。また、附属病院では、保健医療学部と医学部が連携した「看護キャリア支援センター」や「スポーツ医学センター」が設置され、様々な活動を展開しています。東京2020オリンピックにおいても両学部のスタッフが協同して医療支援において大いに活躍しました。

本学の建学の精神は、「進取の精神と自由闊達な気風」「医学・医療の攻究と地域医療への貢献」です。学生の皆さんが、自由で伸び伸びとした学習環境のもと、あらゆることに好奇心を持ち、医学・医療の知識と技術を身に着けることができるよう、そして良質で優れた医療人を輩出し、道民の健康維持・増進のため貢献できるよう、教職員一同努力していく所存です。

保護者の皆様におかれましては、引き続き、本学に対する温かい御支援と御協力をお願い申し上げます。

学部長・医療人育成センター長挨拶

医　学　部

医学部の取り組み

医学部長　**齋藤　　豪**

コロナ禍が始まりかれこれ３年が経過しました。患者さんを守ることが最重要課題であり、そのために学生教育がwebになり、部活動が休止になる時期が続きました。学生の皆さんには我慢を強いる時期が約２年間続きましたが、ワクチン接種ならびに学生個々の感染症対策により学内で大きなクラスターが発生することもなく、昨年度からは規制も徐々に解除され、現在は、ほぼ正常化することができました。医学教育の観点ではコロナも悪いことばかりではなく、学生に医療者としての自覚を深める一つのきっかけとなったと考えております。

2022年には新キャンパスが完成し力一杯勉強する器ができました。2026年には附属病院の改装工事も終了し大学すべての施設がリニューアルされます。有意義な学生生活を送るためのソフト・ハード面のサポート体制も整備されております。新キャンパスの完成とともにエネルギーにあふれた学生一人ひとりが、札幌医科大学の新しい時代に向けた発展の礎となる事を確信しております。

保健医療学部

2022年度も新型コロナの影響を受けましたが、感染対策を徹底し対面授業そして臨床実習を運用することができました。長くオンライン授業が続いてきただけに、対面授業そして臨床実習による学びの時間を学生一人ひとりが享受していることを強く感じています。

保健医療学部は2023年、開設30周年を迎えます。コロナ禍、そして人生100年時代やSociety5.0など変化する社会に応じた保健医療学の創生が求められている今、改めてこれまでの保健医療学部の歩みを俯瞰しこれからの更なる発展の機会とするべく、

保健医療学部の取り組み

保健医療学部長
片寄　正樹

30周年記念誌の発行や記念ホームページの公開を計画しております。今年度は30周年記念事業を通して卒業生との連携を強化しながら保健医療職の多様なキャリアトラックを明示しつつ、教育環境とあわせて学生生活の充実が図れるように取り組みたいと思います。今後とも御支援・御協力を賜りますようお願いいたします。

医療人育成センター

医療人育成センターの取り組み

医療人育成センター長
佐々木泰史

現在当センターは５部門から構成され、医学部および保健医療学部と密接な関わりを持ちながら、入学者選抜、高大連携、教養教育、教育方法の開発研究、両学部共通カリキュラム、卒前･卒後一貫教育の推進、教育に関する多様な情報の収集･分析等、大学の使命を果たすために側面からの支援を行っています。

コロナ禍が大学教育、学生生活に与えた影響は様々ですが、昨年度は実習を含めほとんどの授業を対面で行うことができました。一方で状況に応じてオンライン授業に即応する体制が整いましたので、経験を通じて確立した遠隔技術をさらに発展させるかは今後の重要な焦点になると考えています。

引き続き教育の課題に迅速に対応し、優秀な学生の獲得、学部を超えた教育および教育水準の向上に繋げていきたいと考えています。保護者の皆様におかれましては、今後とも一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

医学部学生キャリア形成支援委員会委員長から学生の皆さんへ

医学部学生キャリア形成支援委員会　委員長　**仲瀬　裕志**

みなさん、医学部入学後の自分の将来像を想像したことがあるでしょうか?例えば、「自分が10年目にどんな医師になっていたいか、具体的なイメージがありますか？」という質問に答えられるでしょうか？救急医！「匠の技」を目指す外科医！医療を進歩させる基礎研究！いずれにしても患者さんのためにがんばるんやというところは、みなさんの共通するところでしょう。（私、京都生まれなので、関西の言葉がでてきますが、お許しを）

さて、前置きは長くなりましたが、医学部学生キャリア形成支援委員会は、進路相談を含め学生キャリアをサポートする委員会です。 ご存知のように、本学医学部は一般枠、先進研修連携枠、特別枠のプログラムに分かれています。ただ、言葉の説明だけでは、卒業後医師としてどのように仕事をしていくのか？なかなかピンこないと思います。この委員会では、学生さんに卒業後のキャリア形成をイメージしてもらうように、各プログラムにおける卒業生のキャリア実例について、先輩の先生方から紹介していただく場を設けています。加えて、一人ひとりに合ったプランを相談・提供することがこの委員会の役割です。本学の使命は、北海道の医療を支える優れた臨床・研究者を育てることです。私たち医学部学生キャリア形成支援委員会は、学生みなさんのキャリアアップを全力で支えていきます！

令和４年度医学部学生キャリア説明会

保護者説明会と医療接遇特別講演会

保健医療学部教務委員会　委員長
小塚　直樹

保健医療学部では令和４年度に、教務委員会が企画運営の主体となり、二つのイベントを開催しました。一つは７月に開催した「保護者説明会」、もう一つは12月に開催した「医療接遇特別講演会」です。今回はこれらについて説明いたします。

１．保護者説明会

大学の現状に関する説明を通じて、保護者の皆様に一層の御理解と御支援をいただくと共に、在学中の学生生活を有意義にすることを目的とし、オンライン形態で開催しました。Covid-19の拡大により定着した本学部の遠隔授業の有効性に関する講話に続き、各学科のここ数年の学生の修学・学生生活・就職状況の説明、個別相談を実施しました。御参加いただいた皆様よりいただいた御意見は、概ね良好な評価となっております。

医療接遇特別講演会

２．医療接遇特別講演会

卒業間近の４年生を対象に、社会に出るレディネス形成を目的とし、対面形態で開催しました。講師は接遇指導の第一人者である椿 武愛子（つばき むつこ）先生にご登壇いただき、卒業後に想定される施設、病院等の人間関係に関わる接遇の基本から応用までを実演を交えながら御指導いただきました。Covid-19の影響で、現場での臨地/臨床実習が少なかった学年であり、その中で経験できたはずの内容が含まれていたためか、学生からの反応は非常に良好なものでした。

以上の様に、教務委員会では、今後も社会状況を正確に見極めながら、保護者の皆様、学生たちに最良な機会を提供したいと考えております。

札幌医科大学　広場「らてす」について

広場イメージ（夏）

本学では、平成23年度に策定した「札幌医科大学施設整備構想」等に基づき、学習・研究環境、診療・療養環境の充実などを図るため、「今ある価値を生かした新しい都市型キャンパスの創造」をコンセプトとした施設整備を約10年間進めておりましたが、令和４年末、ついに新キャンパスが完成しました。新キャンパスの落成を節目に、地域の方々からより親しみを感じていただき、かつ、本学の学生、教職員、卒業生等に愛着と誇りを感じていただけるような新キャンパスの『広場』となるように、札幌医科大学初の試みとして、北海道在住の方を対象に愛称を公募し、244の応募作品の中から、広報委員会による厳正なる審査を経て、令和４年11月、愛称を「らてす」に決定しました。一次選考と二次選考には、医学部と保健医療学部の学生で構成する「大学広報Student Ambassador」の８名を審査員に加え、学生の意見も取り入れながら選考を進めました。

大学と附属病院を繋ぐエリアに位置する新キャンパスの『広場』は、ライラックに似た白色の花を咲かせる「ハシドイ」と、濃い桃色の花が優美な北海道の代表的な桜である「エゾヤマザクラ」を植栽しております。まだイメージ図のように緑生い茂る広場ではありませんが、今後、芽吹き、新緑、紅葉と季節感豊かで、大学と附属病院の多様なアクティビティを受け入れる憩いの共通空間となります。

今後は、愛称「らてす」を幅広く活用し、皆様から親しまれる広場となるように、さらには、愛称に込められた想いである「道民の健康の維持・増進に貢献し、道民の誇りとなる札幌医科大学であり続ける」ために、地域とともに歩んで参ります。

令和５年も新たな取組を展開して参りますので、学生、保護者の皆様の御協力のほど、よろしくお願いいたします。

広場イメージ（春）

愛称「らてす」の理由・込めた想い

この愛称は、医学の父「ヒポクラテス」の名前から引用し、「らてす」と命名いたしました。「らてす」という音の響きが、建物の前面に設けられた屋根のない台状の場所を指す「テラス」に似ており、利用者になじみやすいということ、「らてす」を逆読みすると星を表す「ステラ」になり、北海道のマークが七光星であることから、「道民の健康の維持・増進に貢献し、道民の誇りとなる大学であり続ける」という想いが愛称に込められております。

保健医療学部開設30周年記念事業

保健医療学部作業療法学科
教授　**太田　久晶**

保健医療学部は、令和5年度に学部開設30周年を迎えました。また、前身の札幌医科大学衛生短期大学部開設からは、40年となります。これを記念するために、昨年度より、学部開設30周年記念事業ワーキンググループ（以下、WG）が立ちあがりました。私は、当WGのリーダーを拝命いたしました作業療法学科の太田です。

当WGの活動として、昨年度当初はコロナ禍のため、記念式典の開催検討は保留とし、記念誌の作成から着手いたしました。本記念誌は、これまでの保健医療学部の歩みを振り返ることはもちろんのこと、保健医療学部の教職員のほか、卒業生の活躍を広く紹介することを目的として作成されました。WGメンバーは、多くの時間を割いて、業者と連携しながら、掲載内容の検討、掲載写真や資料の収集を進めました。また、現在、本学部に在籍している教職員のみならず、退職された教員のほか、多くの卒業生のご協力をいただくことで、その内容を充実させることができました。この記念誌は、まず、PDF版として、本学ホームページに掲載となります。ぜひ、ご覧ください。

今後のWGの活動として、学部開設30周年記念ホームページの開設と、冊子体の記念誌作成を進めて参ります。記念ホームページでは、教員が出演する動画の掲載のほか、記念誌に載せきれなかった詳細情報も掲載します。これらのほかに、記念式典の開催なども検討いたします。本学ホームページにて、随時、活動内容を発信ますので、ご注目いただければと思います。引き続き、当事業へのご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

地域医療合同セミナー関連

本学では、地域医療への貢献を目指した質の高い医療人を育成するため、医学部、保健医療学部の両学部合同で地域医療実習を行っています。

令和４年度については、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、オンラインで実施いたしました。

保健医療学部看護学科１年　**秋山ななせ**

地域医療合同セミナーでは、別海町地域包括支援センターの高齢者への取組みの特徴についてインタビューを行いました。事前に地域包括支援センターの取組みについて調査し、知識を得た上でインタビューに臨みましたが、その地域の課題を知るためには、インターネットを利用して調べるのでは不十分で、その地域で医療に関わる話を聞く、もしくはその地域を直接自分の目で見る必要があることがわかりました。今回のインタビューは対面ではなく、ZOOMを通してではありましたが、有意義な時間を過ごすことができました。特に印象に残ったことは、様々な角度から地域の課題を見ることで、ようやくその課題の本質が見えてくるという言葉です。多職種連携についてはこれまでにもたくさん話を聞いてきましたが、地域医療の現場からリアルな声を聞くことができてよかったです。

医学部医学科２年　**宮﨑　瑞菜**

今回の実習では、浜中町の住民の方を対象に、漁業に携わる住民の方々が腰痛を抱えているという地域の特性から、「今日から毎日！腰痛体操」というタイトルのもとでメディカル・カフェを行いました。令和４年度は、現地で行う予定だった山下敏彦学長の講演と、私たち学生による腰痛体操のレクチャーとクイズを録画して、浜中町の方にお届けしました。クイズでは、馴染みのある言葉で正しい情報をお伝えするための説明を心がけました。また、体操のレクチャーでは保健医療学部の戸田創先生にご指導いただきながら、少しでも浜中町の方に健康に関心を持っていただけるよう工夫をしました。

この実習を通して、道内の各地域が抱える健康課題及び医療問題について関心を持つことができました。また、地域の方に自分たちが学んでいることを伝える機会をいただいたことで、将来自分が接する患者さんの存在をイメージすることができたように思います。今回感じたことを踏まえて、自分の学びに対する意識をより高めていきたいと思います。

※学生の学年表記は、2023年３月当時のものです。

札幌医科大学の取組❷

保健管理センターの役割

学内に保健管理センターが設置されています。保健管理センターは、本学で学ぶ・働くあらゆる人の健康支援のための部署です。この3年間は、学務課、附属病院感染制御部及び関係部署と協力して学生・教職員のための新型コロナ対策に質・量ともに最大限の対策を講じてきました。また、心理士の配置と附属病院神経精神科の関与により、学生・教職員のためのメンタルヘルス支援体制が整備され、2022年度は約400件のメンタルヘルス相談と、これとは別に感染症病棟全看護スタッフのメンタルヘルス支援に対応しました。本学が、“「心身の健康問題」、あるいは「悩み」を抱えたときにすぐに相談できる大学”、“いつでも助けてくれる大学”であるために、私たちはセンターの更なる充実を図ってまいります。学生の健康問題等、保護者の皆さまからの御相談もお受けしますので、いつでもお知らせください。

保健室

図書館について

図書館では、蔵書218,322冊（図書85,403冊、製本雑誌132,919冊）の利用提供の他、学修や研究をサポートするためアクティブラーニングエリアを整備しました。可動式の備品（机や椅子、ホワイトボード等）や電源を多数用意し、グループ学習に対応した環境になっています。予約不要の施設は、開館時間にあわせて24時間利用できます。個人、グループ共によく利用されており、学生が活発に課題に取り組む様子がうかがわれます。

非来館型サービスでは電子コンテンツの整備を進めており、リモートアクセスにより本学で契約している電子ジャーナル（5,509誌）や電子ブック（62,853タイトル）等が学外からも利用できます。

図書館の開館情報や提供サービスの詳細は、図書館ホームページをご覧ください。

数値：令和４年４月１日時点

URL：https://hamanasu.sapmed.ac.jp/library/

海外派遣研修

札幌医科大学では、カナダ・アルバータ大学への語学研修や、中国、韓国、米国の交流協定校への臨床実習派遣に取り組んでいます。

令和４年度はコロナ禍により、学生派遣は中止となりましたが、アルバータ大学のオンライン語学研修や協定校である高麗大学の国際医学研究発表会に学生が参加しました。

カナダ・アルバータ大学への語学研修について

保健医療学部看護学科１年 **森田　春香**

私は、英語をもっと話せるようになりたいと思い、入学前からこの語学研修に参加しようと考えていました。

オンラインでの研修でしたが、私にとって、とても有意義なものになりました。

私は英語を話したいと思いつつも、正しく話さなければということばかり考えてしまい、最初は勇気が出ませんでした。しかし、授業を受けていくうちに、失敗を恐れている方が恥ずかしいと考えるようになりました。積極的に参加し、何よりも楽しむということが、語学を学ぶ上で一番重要なことであると気がつきました。

また、身につけたのは英語のスキルだけではありません。カナダの文化や日本との違いについて考え、実際にアルバータ大学の学生とディスカッションする機会があり、それはとても貴重な経験となりました。

今回の研修で、多くの学びを得て、英語をより好きになりました。この経験を無駄にしないように、これからの学生生活を過ごしていきたいと思います。

高麗大学国際医学研究発表会について

医学部４年 **中島　龍汰**

私はMD-PhDコースとして薬理学講座に所属しています。これまでに国内の学会で研究成果を発表する機会はありましたが海外で発表するという機会はありませんでした。そんな中で、高麗大学で国際医学研究発表会があると知り、良い機会だと思い参加しました。

国際医学研究発表会では世界中から集まった多くの学生が様々な分野で研究した成果を発表していました。また流暢な英語で活発な議論が行われていました。私の発表でも質疑応答の時間に多くの質問をいただきました。何とか答えることができましたが、私自身がより英語をスムーズに話すことができたら、より議論を深めることができたとも感じました。国際医学研究発表会全体を通して私の英語力の実力不足を感じたため、これからの課題にしていきたいと思います。

今回の体験を励みにして、これからも研究活動に取り組み、成果を国内外問わず多くの場で発表していきたいと思います。

※学生の学年表記は、2023年３月当時のものです。

■2023年度　学生担当教員

2023年度　医学部　学生担当教員一覧

担当期間　2023.4.1～2024.3.31

学年	学生担当教員	副学生担当教員
第１学年	薬理学講座　教　授　久野　篤史	薬理学講座　助　教　細田　隆介
		医療人育成センター 教養教育研究部門　准教授　有木　茂
第２学年	解剖学第一講座　教　授　大﨑　雄樹	解剖学第一講座　准教授　市川　量一
第３学年	神経内科学講座　教　授　久原　真	神経内科学講座　講　師　鈴木秀一郎
第４学年	小児科学講座　教　授　津川　毅	小児科学講座　助　教　赤根　祐介
第５学年	皮膚科学講座　教　授　宇原　久	皮膚科学講座　准教授　肥田　時征
第６学年	呼吸器・アレルギー内科学講座　教　授　千葉　弘文	呼吸器・アレルギー内科学講座　准教授　黒沼　幸治

2023年度　保健医療学部　学生担当教員一覧

○学生担当教員

担当期間　2023.4.1～2024.3.31

学年	看　護　学　科	理学療法学科	作業療法学科
	教　授　澤田いずみ	教　授　谷口　圭吾	教　授　池田　望

○副学生担当教員

学年	看　護　学　科		理学療法学科		作業療法学科	
第１学年	講　師　岡田　尚美	講　師　浅利　剛史	講　師　戸田　創	（副学担補佐）助　教　田代　英之	准教授　中村　裕二	（副学担補佐）講　師　横山　和樹
第２学年	准教授　澄川真珠子	講　師　中村　円	講　師　井平　光	（副学担補佐）講　師　佐々木健史	准教授　中島そのみ	（副学担補佐）講　師　横山　和樹
第３学年	教　授　堀口　雅美	講　師　田口裕紀子	准教授　山田　崇史	（副学担補佐）助　教　根木　亨	教　授　太田　久晶	（副学担補佐）助　教　齊藤　秀和
第４学年	講　師　林　佳子	講　師　鳥谷めぐみ	講　師　岩本えりか	（副学担補佐）教　授　谷口　圭吾	講　師　森元　隆文	（副学担補佐）助　教　齊藤　秀和

教育分野別評価の受審・認定について

本学では、令和３年度に一般社団法人日本医学教育評価機構（JACME）による医学教育分野別評価及び一般社団法人日本看護学教育評価機構（JABNE）による看護学教育評価を受審し、どちらも評価基準に適合していることを認定されました。

今後も引き続き、教育の充実、質の向上を図り、保健、医療、福祉、衛生並びに国際保健に貢献するための人材を育成する大学としての役割を果たしていきます。

学務課通信❷

■2023年度　学事予定

【医学部】

４月７日（金）	入学式
４月10日（月）	新入生プログラム
６月上旬	卒業試験①（第６学年）
６月８日（木）～11日（日）	大学祭
６月25日（日）	大学記念日
９月上旬	解剖体慰霊式
10月12日（木）～14日（土）	体育祭
10月中旬～11月中旬（予定）	卒業試験②（第６学年）
12月１日（金）	文化芸術祭
３月15日（金）	卒業式

入　学　式

卒　業　式

【保健医療学部】

４月５日（水）～６日（木）	新入生オリエンテーション
４月７日（金）	入学式
６月８日（木）～11日（日）	大学祭
６月25日（日）	大学記念日
８月28日（月）～９月17日（金）	前期定期試験 （学部・学科により異なる）
９月上旬	解剖体慰霊式
10月12日（木）～14日（土）	体育祭
12月１日（金）	文化芸術祭
２月13日（月）～３月３日（金）	後期定期試験 （学部・学科により異なる）
３月15日（金）	卒業式

■令和４年度卒業生進路状況（令和５年３月16日現在）

【医学部】

道内		
	札幌医科大学附属病院	9
	他病院	68
道外		18
その他		11
合計		106

【保健医療学部】

就職先／学科	道内							道外						その他（未定等）	合計
	札医大附属病院	公的病院（札医以外）	民間病院	病院以外	市町村等	進学	計	公的病院（札医以外）	民間病院	病院以外	市町村等	進学	計		
看護学科	22	1	8	0	0	12	43	5	1	0	0	1	7	0	50
理学療法学科	3	0	7	1	0	6	17	0	0	0	0	1	1	1	19
作業療法学科	0	2	15	0	0	3	20	0	0	0	0	0	0	0	20
計	25	3	30	1	0	21	80	5	1	0	0	2	8	1	89

北海道公立大学法人札幌医科大学
事務局学務課
〒060-8556　札幌市中央区南１条西17丁目
電　話　(011) 611－2111　内線21820
FAX　(011) 611－2219
https://web.sapmed.ac.jp/